

理事長にインタビュー

理事長

くり はら ひとし
栗原 仁 先生

「患者様に必要とされる存在になれたことがこの上ない喜び」

秩父市にある「秩父臨床デンタルクリニック」は、“患者様のための歯科医院”を第一のコンセプトに、2004年に開設されたクリニック。理事長である栗原仁先生は、いかにお口の中の健康を保つかを考え、日々丁寧な診療に当たられています。治療経過を大切にしたインプラント治療を行い、地元の皆様に信頼される医院を目指されています。

今回はそんな栗原先生に、気になるインプラントのことやクリニックのことなどについて伺いました。

インプラントは、生活の質の向上に繋がる手助けになる

—— まずは早速ですが、栗原先生が考えるインプラントの最大のメリットとは何でしょうか？

天然歯は、役割が一本一本違います。1本失うだけで他の歯に負担をかけてしまい、健全だった天然歯の寿命を縮めます。その失った部位にインプラント治療を施すことで他の歯の寿命を延ばす手助けにもなります。

総入れ歯の方の場合も、義歯の不具合や痛みで何度も通わなければならない状況から解放されます。



インプラント治療は、自分の歯を残す上でも大変有効な治療法です。

—— 入れ歯やブリッジなどで不満をお持ちの方にとって朗報ですね。

では、実際にインプラントにされた方のお声はいかがでしょう？

今まで入れ歯やブリッジを使っていた患者様は、外食や旅行を嫌う傾向にあります。そのような患者様がインプラント治療を施すことで、食べるだけでなく生活の質の向上にも繋がる手助けになります。以前、患者様から言われて半分嬉しかったこと、半分戸惑ったことがあります。それは「食べ物が美味しくなって10キロ以上太った。」という言葉です。歯科医師としては大変嬉しいですが、全身管理は非常に難しいと痛感したひと言でした(笑)。

—— 新たな悩みも出てきますが(笑)、食べ物が美味しく感じられるのは幸せですね！でも、インプラントは「何となく怖い」というイメージを持つ方も多いたと思いますが、実際のところどうでしょうか？



怖いイメージの多くが昔の失敗話に原因があるかと思います。今から10年以上前は設備が整っておらず、立体的に歯槽骨(顎の骨)を見ることができませんでしたので、神経や血管を傷つける事故がありました。

しかし、現在はCTスキャナが普及し、大事な神経や血管を傷つける可能性はほとんど無くなりました。安心して安全な治療が確立していますので、どうぞ安心下さい。

患者様が本音を話せる環境作りを心がけて

—— ところで、栗原先生は常に進化するインプラントの技術、知識をどのように習得されておられますか？

毎年海外で開かれるインプラントの国際学会に参加しています。その都度、出席して感じることは、インプラントはほぼ確立された治療法だということです。

近年発表される内容は、どの治療方法が一番永続的に続いたのかという結果報告の話が多くなりました。この何百通りもある報告や知識を、どう処理するかが一番重要だと思っています。

—— それでは、患者様とコミュニケーションをとる上で心掛けている点はどこでしょうか？

私たち歯科医師が、患者様にご説明する治療の内容には、永続的に歯やインプラントを残すために将来を見越したお話をすることがあります。患者様の年齢を考慮し、ご希望に合わせて治療方法をご提案するには、普段からのコミュニケーションが非常に重要ですので、患者様が本音を話せる環境作りを心がけて

ております。

当院では、まずスタッフからの声掛け運動を行っており、コミュニケーションをしっかりとるようにしております。

—— では、栗原先生。すばり！クリニックの強みはどこでしょうか？

歯を失った患者様にとってインプラント治療はもちろん重要なことですが、もっと大事なことは自分の歯を残すことです。インプラント治療を施すことで、他の歯に負担をかけず天然歯をどれだけ残すことができるかが大切だと思います。

当院では、その場しのぎの治療ではなく、**長期的な治療計画を立案し、長きにわたって患者様の歯の健康を守っていきたい**と考えており、そこが強みでもあります。

—— インプラントをすることで自分の歯も守られるのですね！話は変わるのですが…ご多忙だとは思いますが、休日はどのように過ごされていますか？

1年間を通して、病院の休日である日曜日の半分以上が東京・大阪でインプラント治療なども含めて講師をさせて頂いています。そんな中、数年前より友人に誘われゴルフを始めましたが、ラウンドを周ったりして息抜きになっています。旅行や映画など時間があれば行きたいのですが、今の所はなかなか難しいですね。

—— では、最後に…。先生にとってこの仕事の喜びとはなんでしょうか？

数年前に体調が悪い時期がありました。その姿を見て、患者様から「私のような難しい治療を快諾してもらい、感謝している。この治療を続けてくれるのは先生しかいない。今先生に倒れられたら私が一番困る。」と言われました。この言葉を聞いた時に今までに無い喜びが込み上げました。

私にとって患者様に必要とされる存在になれたことがこの上ない喜びです。